

④ 第4委員会

「自然に親しみ、生き物を大事にするまちづくり」



それでは、第4委員会の意見を発表します。

第4委員会のテーマは、「自然に親しみ、生き物を大事にするまちづくり」です。このテーマについて考えるため、私たちは、7月25日に農業センターの施設見学を行いました。

そこで、私たちは、今いる動物の種類を残していくために、野鳥保護区をつくったり、動物とふれ合いを行ったりしていることを見ました。

そして、命を大切にしていくことが重要だと思いました。

また、乳牛や植物も、人間が安心して食べられるように人間がかかわっていることを見ました。

そして、人間は食べ物を食べる人のために植物や動物の品種改良を行っていることがわかりました。

その後、私たちは、施設見学をしてわかったことや思ったことをもとに、名古屋を「自然に親しみ、生き物を大事にするまち」にするためには何をすればいいか考えました。

それでは、私たちが考えたことを順番に発表します。

○子ども議員

ぼくは、農業センターで見学させてもらい、動物や植物などにふれ合って感じたことがありました。ふわふわのかわいいひよこはぼくの手の中で一生けん命鳴いていました。小さなひよこを守ってあげたいなと思いました。ひよこはこれからも豊かな自然の中で生きていけるようにしてあげたいです。

また、ナスの収穫^{しゆう}を体験し、ナスのへたにはするどいとげがあることを実際に見ることができました。家に持ち帰り、家族みんなでおいしくいただきました。とても楽しい思い出に残る一日でした。

○子ども議員

私たちは、名古屋市^{わたし}の農業センターでひよこのふれ合い体験をしました。

ひよこには、動きが活発な子やだっこされるとすぐねてしまう子など、さまざまな性格^{せいかく}の子がいて、色も黄色だけではなく、黒い子などもいるということがわかり、私^{わたし}たちがよくスーパーで見かける鶏肉^{とりにく}や卵^{たまご}などは、ひよこが成長しにわとりになり、卵^{たまご}を産み、にわたりの命^{とりにく}をもらい、人は鶏肉^{とりにく}を食べているということがわかり、未来にもこのおいしい食べ物を食べるため、ありがたみを知るために、「自然に親しみ、生き物を大事にするまち」にすることが大切だと思いました。

○子ども議員

ぼくは、施設^{しせつ}見学をしたとき、ひよこを持たせてもらいました。なでると、すぐねてしまいました。そこで、ぼくはひよこのような小さな生き物でもぼくのぬくもりを感じていて、かわいいなと思いました。

ぼくの小学校には動物がいません。名古屋市の動物がいない小学校が動物を飼^し育^{いく}すれば、身近に生き物がいて、命の大切さが感じられる人がふえていくのではないかなと思いました。そうすれば、名古屋を「自然に親しみ、生き物を大事にするまち」になると思います。

○子ども議員

ぼくたち第4委員会は、自然に親しみ、生き物を大事にするという目標で、農業センターに行き、ひよこをさわりました。このひよこの種類は名古屋コーチンで、ふつうのひよこやにわとりよりもとても数が少ないです。

そこで、ぼくたちは、小さな命でもこの先の未来で種類がいなくなったら大変だと思いました。なので、この名古屋を、小さなひよこのような命でも大切にし、命を大切にするまちづくりをするのがよいと思います。

○子ども議員

^{わたし}私は、名古屋市農業センターの見学で、たくさんの種類のひよことにわとりを見ました。今いる種類を未来に残していくためには、小さな命を大切にしていくなきゃいけないと考へます。どんなに小さな生き物でも、自然の中での役割^{やくわり}があります。その生き物がなくなると自然のバランスがくずれてしまうかもしれません。体の大小にかかわらず、命の重さは同じです。

^{わたし}私は、一人一人が生き物を大切にす意識^{いしき}を持てるようなまちにしていきたいです。そのためには、まず、自分が日々の生活で生き物を大切にすよう努めます。

○子ども議員

^{わたし}私は、農業センターでひよこやにわとりを見てきました。にわとりは約20種類もいるということにおどろきました。

名古屋でも昔は家庭でにわとりを飼^かっていたと聞いたことがあります。今は環境^{かんきょう}が整っていないので飼^かえなくなっています。

例えば、^{わたし}私は、みなさんが車を使うことを少なくして、にわとりやほかの動物も生き生きと生きていけるような自然に親しむことができる名古屋をつくっていけるようになればいいと思いました。

○子ども議員

ぼくは、農業センターに行ってきた、^{にゅうぎゅう}乳牛や植物などについて学んできました。

農業センターは、^{にゅうぎゅう}乳牛についてだと、とった^{ぎゅうにゅう}牛乳を使ったジェラートやアイスがおいしいし、植物ではカボチャ、ウリ、バジルが心に残りました。カボチャでは、ジャンボカボチャという、イオンで売っているようなカボチャよりも二回りも大きいオレンジ色のカボチャで、ウリはベレーぼう、一部の人にはUFOのような形というようなウリもあって、バジルはかおりがよかったです。

農業センターにより多くの人に足を運んでもらいたいです。

○子ども議員

ぼくは、名古屋を「自然に親しみ、生き物を大事にするまち」にするには、例えば、ぼくたちの小学校でどの学年が一番大きくきれいにヒマワリがさくかというヒマワリコンテストをやったり、ぼくたちが食べているぶたや牛、^かにわとりを学校で飼ったりするのがいいと思います。

一つ目に言ったヒマワリコンテストをやったほうがいいと思った理由は、全学年で競い合うので、みんな負けないようにがんばると思います。そこで、育ちがよくなる方法を調べたり、どうやったら大きくきれいにさくのなど、いろいろなヒマワリのことを調べる人がいると思います。今まで植物に^{きょうみ}興味を持っていなかった人も^{むちゅう}夢中になってしまうかもしれません。もしかしたら植物を好きになってくれるかもしれません。そうしたら、みんな植物を大事にしてくれると思うし、ヒマワリ以外の植物にも^{きょうみ}きょうみを持ってくれると思います。

二つ目のぶたや牛、^かにわとりを学校で飼うという理由は、自分たちがいつも食べているお肉を自分たちの手で育てたりかわいがったりすることで、ぶたや牛の命の大切さがわかるし、大事に大切に食べられるのだと思ったからです。

このように、小学校のときからこうしたことをすることで、名古屋は「自然に親しみ、生き物を大切にするまち」になると思います。

○子ども議員

^{わたし} 私たち第4委員会は、「自然に親しみ、生き物を大事にするまち」にするにはどうしたらよいかを、農業センターを見学し、考えました。

農業センターには、牛やにわとり、カボチャなどの家ちくや農産物があり、木がたくさん生えたところには野鳥^{ほご}保護区という鳥が安心して暮^くらせ、観察できる場所もあり、とても自然の多い場所でした。

町の中にはビルが建ち^{なら}並び、自然の少ないこの世の中にとって、この農業センターは自然に親しめ、生き物を大事にできるいい場所だと感じました。

○子ども議員

^{わたし} 私が農業センターへ行って、生き物を大事にするということは、食べ物をおだにしないと考えました。例えば、学校の給食、ふだんは残飯は少ないのですが、ゴーヤなどのめずらしい食材の日は多く残ってしまいました。めずらしい食材をこく服するために、調理の工夫、栄養などを説明してもらい、がんばって食べられるようにすればいいのかなと思いました。

次に、家でのことを話します。

家では、冷蔵^{れいぞうこ}庫を整理して、消費^{きげん}期限^すが過ぎ^すて捨てなくてもよいようにするのがいいと思いました。

○子ども議員

わたし しせつ
私が施設見学をしてよかったのは、ひよこのふれ合い体験や、牛を見たり、ナスのしゅう収穫体験などをしました。

ひよこのふれ合い体験は、ひよこを持ち、ねてしまう子もいました。また、ひよこをふ化させるような機械もあります。

牛は暑いのが苦手だということがわかりました。

ナスのしゅう収穫体験は、ナスのしゅう収穫をさせてもらいました。

この活動を通じて、生き物を大切に育てたり、大切にしていきたいと思いました。

○子ども議員

わたし
私は、農業センターを見学し、地産地消について考えました。名古屋市は、日本3大都市の一つであり、農業をしているイメージは余りないと思います。しかし、農業センターでは、名古屋の市民の人に1年間畑を貸していたり、ひよこのふれ合いなど農業やちく産にきょうみ興味を持ってもらえるような活動に取り組んでいることを知り、名古屋市では農業やちく産を行っていることを知りました。

わたし
私たちの名古屋市でこれからも農業やちく産が続いていくために、わたし私たちは名古屋市の農産物やちく産物を食べていけたらいいなと思いました。

○子ども議員

ぼくは、名古屋市農業センターに行って、職員しょくいんのみなさんが市民にちく産や農業と強い結びつきを持ってもらうように、菜園を貸したり家ちくとふれ合うなどの経験けいけんや学びていぎようを提供していることがよくわかりました。

そこで、ぼくは、もっと私わたしたちが生きるために必要な農業とちく産を理解かいしてもらうために、長期休みに子どもたちから大人までが宿はくできる施設しせつをつくり、家ちくの世話をしたり、野菜しゆうを収かくして料理をつくる体験などができるようにしたらいいと思います。

実際に、岐阜県のおっぱら村というところでは、はい校になった学校のあと地を利用して、いろいろな人たちにキャンプなどができるところを提供ていぎようしているようです。そういうところに学びながら実際じっさいにつくっていったらいいと思います。運営うんえいするのは近りん住民のみなさんや区、市民が協力していき、地域全体でまちおこしのようなものとしてつくり上げていったらいいと思います。

私わたしたち第4委員会は、このようなことが、名古屋を「自然に親しみ、生き物を大事にするまち」にするために必要だと考えました。

これで、第4委員会の発表を終わります。



■くれまつ土木交通委員長の答弁^{とうべん}

第4委員会の子ども議員のみなさんから、立派^{りっぱ}ですばらしい発表をしていただきました。

第4委員会では、「自然に親しみ、生き物を大事にするまちづくり」をテーマに、子ども委員長、子ども副委員長が中心となって、委員のみなさんが活発^{きらく}な議論^{ぎろん}を行い、たくさんのご意見^{ごいあん}やご提案^{ていあん}をいただきました。ありがとうございました。

みなさんが1日目に施設^{しせつ}見学^{しせつ}に行った先は、農業センター^{やさ}でした。施設^{しせつ}見学^{しせつ}では、ひよこを手のひらで包むように優しくふれ合い、一生けん命鳴いているひよこを守ってあげたいと、命の大切さを感じることができました。

大きな乳牛^{にゅうぎゅう}でも、実は暑さが苦手だということがわかり、体の大小にかかわらず、命の重さは同じだという感想がありました。

畑では、お店では売られていないような大きなカボチャやUFOのような形のウリを見たりして、ナスの収穫^{しゅうく}かく体験^{たいけん}をしましたね。家に持ち帰って家族みんなでおいしくいただいたという発表もありました。

そして、みなさんからは、学校で動物を飼育したり、植物を育てることを行って、命の大切さを感じる人がふえていくのではないかなという提案^{ていあん}、そしてまた、農業センターという場所をもっと多くの市民に伝えていくことがいから、夏休みや春休みに子どもから大人までいっしょに宿はくできる施設^{しせつ}をつくり、野菜^{しゅう}を収穫^{しゅうく}かくして料理をつくる体験^{たいけん}ができる、そんな施設^{しせつ}にしたらどうかという、こういった提案^{ていあん}もいただきました。

農業体験できる施設^{しせつ}や場所をもっともっとふやしていけたらいいなというふうに思います。名古屋には農業センター以外にも二つの



農業公園があります。港区に農業文化園、そして守山区の東谷山フルーツパークです。農業センターをふくむ、こうした施設をもっと市民のみなさんが利用されるように宣伝していきたくと思います。

また、毎日食べているものが、鶏肉や卵はひよこが成長してにわとりになり、卵を産む、そして命をもらって食べているということがわかって、未来にもこのおいしい食べ物を食べるために感謝して、自然に親しみ、生き物を大事にすることが大切だという、こういう発表もありました。

また、学校給食では、残飯は少ないけれども、ゴーヤなどめずらしい食材が多く残っていたので、調理の工夫や栄養などの説明をして、みんなが食べられるようにしていくといいのではないかと、こういう提案はとてもすばらしい提案だと感動しました。

このほかにも、名古屋の農産物やちく産物を食べていけるといいなという意見もありました。みなさんの発表をしっかりと受けとめさせていただき、私たちも名古屋市を自然を大切に、生き物を大事にするまちにするために、努力してまいりたいと思います。

最後に、私たちもみなさんとごいっしょする中で、たくさんのごとを学ばせていただきました。森副委員長、佐藤副委員長、そして教育委員会の服部先生、そして農業センターの職員のみなさんとともに子ども委員のみなさんに感謝を申し上げまして、答弁にかえさせていただきます。ありがとうございました。

